

モハラテクニカ

鋼板・需要産業

工場拡張 自動倉庫を新設

レーザー複合機 6月導入



少量・短納期対応を可能にする自動倉庫

精密板金加工を行うモハラテクニカ(本社：群馬県高崎市、茂原純一社長)はこのほど、本社工場を拡張し、構内に自動倉庫を新設した。業務拡大に伴い、生産性向上と保管能力の増強を図るもので、6月には最新鋭のパンチ・レーザー複合機を導入し、高精度加工と短納期を武器に受注増を狙う。

ここ数年、取引先企業数は増加傾向にあり、業績も好調に推移しているが、手掛ける加工領域が広がり、取り扱う材料の量や種類も増えてきたことから、段取り工程などに時間を費やし、生産性が低下する要因にもなっていた。このため、

手狭となっていた本社工場を増築し、作業スペースに余裕を持たせ、材料を保管する自動倉庫の導入した。延べ床面積は従来比2倍に拡大している。

自動倉庫は加工する材料を全自動で搬出し、管理する装置で、全156パレットを有する。1パレット当たり、4×8サイズで最大1.5mまで積載可能。多種多様な材料を準備しておくことで、少量・短納期対応を可能にする。

新たに導入予定のパunch・レーザー複合機はドイツ・トルンプ社の「Trumatic

7000」で、日本国内には約10台しかない上位機種。最新のパンチング機能で加工時の傷の発生を抑え、より付加価値の高い加工を実現。加工スピードもアップし、歩留まりも向上する。一連の投資額は約3億円。

同社は関東地区を中心に板金加工のほか、溶接、製缶、各種治具、金属成型の設計・製造を手掛ける。取引先はキヤノン電子や三菱マテリアルをはじめ、常時60〜70社。普通鋼からステンレス、アルミ、特殊金属まで幅広く取り扱う。売上高は約3億円で、受注量はリーマン・ショック以前に比べて80%回復している。

茂原社長は「景気が低迷している今だからこそ、投資費用もリターンアップに抑えられる。先行きの不透明感はあるが、まずは顧客満足度の向上を追求し、次につながる仕事をしていきたい」と話している。